

進捗状況報告シート

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	総合支援センター
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2011.5.1~2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2011年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA,B,C,Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A,B,C,D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2011年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価		
		2011	2012	2013
1. 学生支援相談(カウンセリング)に指導助言を行なう教員3名(副長1名、センター委員(2名))、キャンパス自立支援(障がい学生支援)に指導助言を行なう教員4名(副長1名、センター委員(3名))を配置する	委員の配置状況 評価基準: A→5人 B→3~4人 C→1~2人 D→0人	A	/	/
2. 環境を配慮した面接室(自然採光、防音設備、プライバシー確保、適度な広さ<15㎡以上>)に改善し合計4室確保する。	適切な環境の面接室数 評価基準: A→4室 B→3室 C→1室~2室 D→0室	D	/	/

2012年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価		
		2011	2012	2013
	→	/	/	/
	→	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 中央教育審議会大学分科会から平成21年8月26日「中長期的な大学教育のあり方に関する第二次報告」に「多様なニーズに対応する大学教育を実現するための総合的な学生支援」として「学生相談の内容が、対人関係、学修上の問題、経済的問題等、多様化しており、また、学生が抱える課題には様々な背景がある可能性も高いため、学内外の関係機関による有機的な連携・協力が非常に重要である」と述べている。そのため本学では、2011年4月に「総合支援センター」を設置した。総合支援センターは、学内外関係機関との窓口として、「心」や「身体」に困難を抱えている学生に総合的に対応するため「学生支援相談室」と「キャンパス自立支援室」を統合した組織である。
☆ 小項目4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 日本学生支援機構が平成19年3月に発表した「大学における学生相談体制の充実方策について」によると「学生支援相談室の施設は、専有スペースを保持し、とりわけ面接室は防音に配慮がなされ空調などの設備が整い、安心して相談に集中できる環境が必須である」と記載されている。しかし本学上ヶ原キャンパスの学生支援相談室の面談室は6.45㎡と8.75㎡およびフリールーム14.88㎡しかなく、更に防音設備がなく、事務エリアと隣接しており部屋の出入りのプライバシーが全くない。更に相談者が増えているが待合室もなく複数の学生がアポイントを待つような事態が生じている。面接室の不足は重要課題であり、会議室を便宜上代用している状況が続いている。
その他	

《評価指標データ》

博士研究員（PD）の受入状況
 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
 研究誌発行状況
 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
 21世紀COEプログラムの採択状況
 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】
 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】
 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目4.0.1	総合支援センターの「学生支援相談室」および「キャンパス自立支援室」はそれぞれ、各学部、保健館と緊密に連携をとると共に、学外の医療機関や支援機関とも連携をとっており、危機対応を含め、本学の現状の環境下では学生支援の組織体制は整っている。
★ 小項目4.0.2	現在、上ヶ原キャンパスの学生支援相談室の面接室は2室、フリールームが1室ある。しかし、個々の部屋は狭隘で、防音設備は全ての部屋になく、自然採光も得られてない面接室が1室あり、学生相談に対応する適正な環境ではない状況が続いている。
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

小項目4.0.1	「学生支援相談室」を訪れる学生数や障がいのある学生数は年々増加傾向にある一方、相談内容や支援内容には深刻化、複雑化する傾向にある。そのため「学生支援相談室」や「キャンパス自立支援室」では、今後この様な傾向にある状況に対応するため、連携・協力を一層すすめて、新しく対応が必要な支援制度をよりきめ細かく整備するとともに、医療機関や外部支援機関との連携も一層進めていく。
★ 小項目4.0.2	次年度は早急に、上ヶ原キャンパスの学生支援相談室の面接室は2室、フリールームが1室について、防音設備の工事申請を行なう。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目4.0.1	個人情報保護について、学生支援相談室ではカウンセラーの「守秘義務」として明確に定めているが、キャンパス自立支援室では、修学支援に必要な個人情報については、本人に確認しながら学部との情報共有を図っている。しかし学生支援相談室とキャンパス自立支援室間で、必要な情報共有について制度として整備出来ていない。
★ 小項目4.0.2	現在ある2室の面接室を防音仕様にする。中長期的には学生サービスセンター3階の会議室（小会議室2室）を面接室2室にする。あるいは「就職セミナー・ルーム」を改修して面接室2室を設置する。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目4.0.1	「学生支援相談室」「キャンパス自立支援室」の連携協力を一層進める上で、個人情報保護に関する方針を定め、総合支援センターとして共有する。
★ 小項目4.0.2	現在使用している2室の面接室の防音工事を申請する。中長期では、大学関係機関と調節しながら、学生サービスセンター3階の会議室（小会議室2室）あるいは、「就職セミナー・ルーム」を改修して環境の整った面接室2室を増設する。
その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価 ＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

- 施設、設備については、全学的な調整が必要ですが、適切な相談、支援が行われることが期待されます。
- 丁寧で誠実な記述と評価基準についての印象は「1. 理念・目的」と同様です。
- 「1. 理念・目的」にもコメントしましたが、本報告シートの形式は、センターの状況に充分対応した内容のものではない部分がありますが、小項目4.0.1は、センターが理念・目的に照らして適切かというものです。従って、本学の理念・目的に従い、編成原理があるか、社会の要請に役立っているか、という観点で記述する必要があります。従って、「1. 理念・目的」で記述された活動内容をこの項で記述して組織が適切であることを示されることも良い方法です。
- このことからすると、現状の説明、小項目4.0.1は、「1. 理念・目的」で記述されることでしょう。
- 小項目4.0.2は、4.0.1の検証です。従って、現記述は環境のことですから、本項の記述ではありません。自由記述欄での記述が適切でしょう。また、検証しているか否かのチェックが抜けています。
- 小項目4.02の検証の有無にチェックが入っていません。
- 効果が上がっている事項、改善すべき事項は、もう少し具体的であることが望まれます。
- 目標2の問題は、至急の対応が必要かと思われます。デリケートな問題を扱うため、最低限のものだけでも早急な手当が必要でしょう。
- 改善すべき事項で上がってきたことを、中期的な目標に設定することもお考えください。
- 二つの室が有機的なつながりを持って活動できような取り組みに期待します。
- 目標の進捗評価が「A」の場合は効果が上がっている事項に、「D」の場合は改善すべき事項に記述が必要です。
- 目標の1は、「1 1. 教員・教員組織」での目標ではないでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

- 1. 総合支援センターが理念・目的に照らして適切か、編成原理があるか、社会の要請に役立っているかという観点で、今後は活動内容を記述し、組織の適切性を示します。
- 2. 4.0.2は4.0.1の検証ですので、組織活動が理念目的に照らして適切であるかどうかの検証であることから、現状では、総合支援センター規程に従い、「総合支援センター委員会」「総合支援センター連絡会」を定期的で開催し、連絡、協議を行なっていますので、組織活動の検証機能を果たしていると考えています。
- 3. 目標2の問題につきまして、本年度最低限の措置として、面談室の扉の防音工事を行なうことができました。
- 4. 目標1につきましては、今後「教員・教員組織」として取り扱うことといたします。